11月17日　　申命記18章15～22節

「救いの約束」

今日の個所は、もともとはモーセが十戒を受けたホレブ山での出来事が背景にあります。人々は神様の声を「雷」として直接聞いて、恐ろしさに震え上がったその事を思い出しながら「神様から直接言葉を聞くのは恐ろしい」「あんなことがまたあれば、恐ろしさで死んでしまう」と言っていたようです。ただ、神様の言葉がなければ、人は正しく生きることが出来ません。だからこそ預言者という職業が間に挟まり、人々に神様の言葉を届けていました。

この言葉を、新約聖書を通して読み、この預言者が「イエス様のことを示している」と受け止めることによって、イエス様が「私たちが死ななくていいように」というイスラエルの民の求めに対する応答としてこの世に遣わされたことを知ることが出来ます。ただイエス様の言葉に従い、神様の御心を実現することが出来れば、本当の意味でも「死ななくてよくなる」ことが福音書には示されており、今日の個所を預言的に読むことが出来ます。

さらに、偽預言者を決して許さない神様の姿勢から、イエス様がその人生の始めから終わりまで、自分の思いではなく、ただ真実に神様からの言葉を語り続けた方であることを理解できます。そして、「その言葉が起こらず、実現しないならば、それは主が語られた言葉ではない」という言葉によって、イエス様が語ったすべての言葉が実現したことからも、イエス様がここで語られている預言者であり、神様によって証しされる神の子かつ子なる神であることを私たちは実感することができるのです。

これらの申命記の預言が、他の個所と同様に定めの一つであると考えれば、中心となっているのは民に向けて命じられている「その預言者にしっかりと従いなさい」という定めであり、私たちの言葉であればもちろん「イエス様に従いなさい」と神様が呼びかけていると受け止めることができます。

それでは、私たちは、人生のどれほどをイエス様に従いながら生きることが出来ているのでしょうか。心の底から、ここで命じられているようにイエス様に従い切ることが出来ているのでしょうか。神様に支えられている、生かされていることを自覚しながら日々生きることが出来ているか、間違ったことをしてしまった時にすぐに神様の御心に立ち返ることが出来ているのか、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容をいつも心掛け、キリスト者として堂々と生きることが出来ているのでしょうか。

そうだと断言できる人は決して多くいはないかもしれません。私たちは罪をゆるされて、罪に縛られず生きることが出来ていますが、それでも知らず知らずに、また知っていながらも罪を犯してしまう存在です。ただ、私たちがそのような存在であることを神様はよくご存じで、そんな私たちを救おうとしてくれている、その神様の慈しみを私たちはいつも覚えておく必要があるのです。

11月も半ばが過ぎ、イエス様誕生を祝うクリスマスが刻一刻と近づいています。その時まで、私たちの言動全てがイエス様を正しく証しすることが出来るように心を引き締めつつ、神様に用いられていることを喜びに思いながら、この日々を共に歩んでいきましょう。

今日の説教箇所：申命記 18 章 15～22 節

- 15:あなたの神、主は、あなたの中から、あなたの同胞の中から、私のような預言者をあなたのために立てられる。あなたがたは彼に聞き従わなければならない。これは、あなたが集会の日にホレブで、あなたの神、主に「私が死ぬことがないよう、私の神、主の声を二度と聞かず、また、この大いなる火を再び見ることのないようにしてください」と言って求めたことによるものである。その時、主は私に言われた。「彼らの言うことはもっともである。私は彼らのために、同胞の中からあなたのような預言者を立て、その口に私の言葉を授ける。彼は私が命じるすべてのことを彼らに告げる。彼が私の名によって語る私の言葉に聞き従わない者がいれば、私はその責任を追及する。ただし、預言者が傲慢にも、私の命じていないことを私の名によって語ったり、他の神々の名によって語ったりするならば、その預言者は死ななければならない。」もしあなたが心の中で、「私たちは、その言葉が主の語られた言葉ではないことを、どのように知りえようか」と考える場合、その預言者が主の名によって語っていても、その言葉が起こらず、実現しないならば、それは主が語られた言葉ではない。預言者が傲慢さのゆえに語ったもので、恐れることはない。